

第5学年 和音の美しさを味わおう

豊田市立東広瀬小学校 第5学年14名 指導者 教諭 福岡 大乃

- 1 題材名 和音の美しさを味わおう ～IIVVV7でオリジナル曲づくり～ (全7時間)
教材曲 「静かにねむれ」「カノン (パッヘルベル)」 オリジナル曲づくり

2 題材の目標

- (1) 和音の響きの変化を感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり想像豊かに聴いたりする。
(関心・意欲・態度, 鑑賞の能力)
- (2) 和音の響きを生かしたり, リズムや旋律などの音楽の要素を取り入れたりすることで, まとまりのある旋律をつくる。
(音楽表現の創意工夫)

3 身に付けさせたい力

和音の美しさや響きの変化を感じ取りながら鑑賞や音楽づくりを行い, 友達とかかわることで, さらによい音楽表現をしようとする力

4 学習指導要領の内容との関連

- (1) 指導事項 (音楽づくりの活動) ○印はこの題材での主な指導事項

○	ア いろいろな音楽表現を生かし, 様々な発想をもって即興的に表現すること。
○	イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら, 音楽の仕組みを生かし, 見通しをもって音楽をつくること。

- 指導事項 (鑑賞の活動) ○印はこの題材での主な指導事項

○	ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。
○	イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り, 楽曲の構造を理解して聴くこと。
	ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして, 楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。

- (2) 指導する【共通事項】の主な内容 (空欄の事項はこの題材では指導しない事項です)

ア (ア)	音色	
	リズム	
	速度	
	旋律	創作したオリジナル曲の旋律, パッヘルベルのカノンの旋律
	強弱	
	音の重なりや和声の響き	IIVVV7の和音
	音階や調	
	拍の流れやフレーズ	
ア (イ)	反復	和音の反復
	問いと答え	
	変化	和音の反復による旋律の変化
イ	音符, 休符, 記号や用語	全音符・1番かっこ2番かっこ・bフラット

5 題材設定の理由

(1) 児童の実態

男子6人、女子8人の子どもたちに4月にアンケートをとった結果、音楽が大好き・好きと答えた児童は、77%だった。内容ごとに「大好き・好き」と答えた割合は、歌うこと85%、楽器演奏91%、音楽づくり54%、鑑賞92%だった。音楽づくりでは、「自分の好きなように曲がつくれて楽しい」「去年やったお囃子づくりが楽しかった」「みんなでつくと自分ひとりで考えた時よりきれいになる」といった意見がある一方、「何をすればよいか迷ってしまう」「難しい」といった意見もあった。昨年度の実践「拍の流れにのって」のお囃子の旋律づくりでは、初めての音楽づくりだったにもかかわらず、多くの児童が意欲的に活動することができた。それは、手順が細かく決まっていたため、学習の見通しをもつことができたからだろう。

アンケートの結果からもわかるように、この学級の子どもたちは基本的には音楽が好きだ。体で拍子をとって楽しく歌を歌ったり、「リボンのおどり」でいろいろな楽器を組み合わせる演奏したりもできる。しかし、楽譜通りにできるようになったところで満足してしまう。自分ができるようになったところで終わってしまい、こうやって演奏したいと、自分の思いを周りの友達にまで発信できる子は少ない。このような子どもたちに、音楽を形づくっている要素や仕組みを生かして音楽づくりをさせる中で、思いや意図をもって、楽しく音楽活動ができるようにと願いをかけた。

(2) 本題材の価値

本題材は、①和音との出会い②鑑賞教材により実際に使われている和音の発見③和音を基にした音楽づくりを指導するものである。

曲をつくる場面では、毎年卒業式で演奏され、子どもたちも大好きな曲「パッヘルベルのカノン」を取り上げる。この曲は、I→V→VI→III→IV→I→IV→Vの和音が循環していて、旋律も二分音符→四分音符→八分音符と次第に細くなっている。曲を聴いたり、楽譜を見たりすることで、音楽の仕組みや変化に気づき、それを音楽づくりに生かすことで、各自が短い曲(I→IV→I→V⁷→I→IV→V⁷→I)をつくることのできる。カノンから聴き取った音楽を形づくっている要素(旋律の動きやリズムの変化)を取り入れることで、さらにレベルの高い曲にすることも可能である。

8小節の曲は各自でつくるが、それを持ち寄ることでグループのオリジナル曲づくりへ発展していく。その過程で、各自がつくった旋律を重ね合わせたときの響きに注目させたい。さらに、これまでに学習した「続く感じ」「終わる感じ」を使い、友達とかかわりながら旋律をつないだり重ねたりすることができれば、一つの曲になり、それを和音の進行にのって演奏することで、和音の美しさを感じ取ることができると考える。

(3) 評価を生かした指導と教師の支援

今まで歌やリコーダーを通して、ほぼ単音でしか接していなかった音楽を、いきなり和音で聴き取することは、子どもたちにとってはハードルが高い。そこで、基本のIIVVを使った音楽遊びを取り入れ、和音の響きを体感させたい。和音と友達になるところを出発点として、さまざまな曲の中で、和音の響きを味わったり、和音の移り変わりをと感じ取ったりする活動へつなげていきたい。さらに、子どもたちの大好きな「パッヘルベルのカノン」から、音楽を形づくっている要素(旋律の動きやリズムの変化)を抽出して、グループの「オリジナル曲づくり」に生かしたい。また、音楽づくりの活動の中でライブ評価を取り入れ、一人一人のよさを認めたり、アドバイスしたりすることで、音楽づくりに対する抵抗感をなくしていきたい。さらに、題材の最後はグループでつくった曲を録音し、CDの形に残すことを提案し、子どもたちの意欲を持続させたい。

この題材を終えた子どもたちは、音楽の仕組みを使ってさらによいものをつくることに喜びを感じ、今後も、音楽づくりに対して積極的に取り組むことができるであろう。

6 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度

和音の響きやその移り変わりを感じ取って、楽曲の構造を理解して聴いたり、思いや意図をもって表現したりする学習に主体的に取り組んでいる。

イ 音楽表現の創意工夫

和音の響きや移り変わりを感じ取り、全体のバランスに気をつけて工夫して旋律をつくっている。

ウ 音楽表現の技能

和音の響きやその移り変わりの美しさを感じ取って、友達の音と調和させて演奏している。

エ 鑑賞の能力

和音の響きの美しさを感じ取り、音楽の仕組みに気をつけて聴いている。

時	ねらい	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
1時	和音の響きを感じ取りながら、「静かにねむれ」で使われている和音を探ることができる。	①和音の響きの変化を感じ取って、和音をさがす活動に主体的に取り組もうとしている。 【観察】			
2時	I IV V V ₇ の響きを感じながら「静かにねむれ」を演奏する。			①和音の移りわりを感じ取りながら、演奏している。 【演奏聴取】	
3時	「パッヘルベルのカノン」を鑑賞し、音楽の仕組みをみつけることができる。				①和音の移りわりに注目し、同じ和音進行が繰り返されていることや、リズムや旋律の変化などの音楽の仕組みをとらえている。 【ワークシート】
4時	I IV V V ₇ の和音の構成音を使い、全音符で8小節の旋律をつくることができる。		①和音(I, IV, V, V ₇)の構成音から意図をもって音を選び、8小節の旋律をつくっている。【ワークシート・演奏聴取】		
5時(本時)	前時でつくった8小節の旋律に音楽的要素を加えて、オリジナル曲をつくることができる。		②カノンから聴き取った音楽を形づくっている要素(旋律の動きやリズムの変化)をオリジナル曲に生かしている。【ワークシート・演奏聴取】		
6時	グループで各自の旋律をつなげたり重ねたりして、オリジナル曲をつくることができる。		③一つの音楽としてまとまるように、各自の旋律のつなぎ方や重ね方を工夫している。【演奏聴取】		
7時	オリジナル曲発表会&レコーディングをして、「オリジナル曲アルバム」をつくることができる。			②和音の移りわりを感じながらオリジナル曲を演奏している。 【演奏聴取・発言】	

7 題材の指導計画（学習の流れ）…全7時間

音楽活動に対しては意欲的だが、友達と積極的にかかわってさらによいものにしようとする意識は低い。また、音楽づくりに対して苦手意識をもっている子どもたち

児 童 の 思 い	教師の支援 ◆評価
<p>いろいろな響きの和音があるね。</p> <p>「静かにねむれ」ではどの和音が使われているのかな</p> <p>「静かにねむれ」に伴奏をつけよう 1・2時</p>	<p>I V V V 7の和音を一人一人探したり、友達が演奏しているのを聴いたりすることで、和音の響きを感じることができるようにする。 ◆ア①ウ</p>
<p>I V V V 7で伴奏ができるんだね。</p> <p>他の曲でも和音が使われているのかな。</p> <p>実際に和音が使われている曲が聴きたいな</p> <p>「パッヘルベルのカノン」を聴こう 3時</p>	<p>曲を聴いたり、楽譜を見たりすることで、和音の反復や旋律の動きに注目できるようにする。 ◆エ①</p>
<p>同じ和音進行がずっと繰り返されているね。</p> <p>きまった旋律の動きがあるね。</p> <p>パッヘルベルのカノンの秘密がわかったよ</p> <p>「オリジナル曲」をつくろう 4・5時（本時）5/7</p>	<p>旋律のつくり方を①I V V V 7の和音の構成音を使うこと②旋律の動きを選んでそれに合うように音を決めていくこと、と具体的に示すことで、旋律づくりに生かせるようにする。 ◆イ①②</p>
<p>和音の構成音を選んでいくときれいな旋律ができるね。 4時</p> <p>カノンを形づくっている要素（旋律の動きやリズムの変化）を使ってみよう。 5時</p> <p>グループの子と重ねてみたいな</p>	<p>和音の響きの中で音楽づくりができるように、キーボードに和音進行を録音しておく。</p>
<p>各自の旋律をつなげたり重ねたりしてグループでオリジナル曲をつくろう 6時</p> <p>みんなで重ねてもきれいに響くんだね。</p> <p>みんなの曲をどうやってつなげたらいいのかな。</p> <p>グループのオリジナル曲ができたよ</p>	<p>続く感じや終わる感じ、旋律のリズムや流れに注目して旋律をつなぐようにアドバイスする。 ◆イ③</p>
<p>発表会&レコーディングをしよう 7時</p> <p>みんなの曲が重なって、きれいに聴こえるね。</p> <p>同じ和音を使っているのに、いろいろな曲ができたね。</p>	<p>演奏を録音し、自分のグループの演奏も客観的に聴く機会をとるようにする。 ◆ウ②</p>

音楽の仕組みを学ぶことにより、さらによいものをつくる喜びを感じ、音楽づくりに積極的に取り組むことができる子どもたち

公開授業指導案

8 本時の展開

(1) 本時のねらい (本時 5/7)

オリジナル曲をつくるために、I→IV→I→V7→I→IV→V7→Iの和音の響きの変化を感じ取りながら、音楽の仕組みを生かした音楽づくりをする。

(2) 学習の展開

時	学習内容	学習活動	教師の支援 ◆評価
出 合 う 5 分	1 音楽遊び「Let's 和音」を行い、和音の響きを確認する。	(1) I, IV, V, V7の和音のそれぞれの構成音をどれか一つ演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> すべての和音から構成音を選べない子については、どれか一つでもよいことを助言する。 前時に児童がつくった2つの旋律を聴き比べることで、同じ和音進行でも違う雰囲気の旋律ができることが確認できるようにする。
か か わ り 合 う 25 分	2 前時でつくった8小節の旋律に、カノンから聴き取った音楽を形づくっている要素(旋律の動きやリズムの変化)を加えて、オリジナル曲をつくる。	<p>つくった旋律を究極進化させよう</p> <p>(1) 前時につくった友達の旋律を聴く。</p> <p>ぼくとは違う旋律だね。</p> <p>もっと素敵な曲にしたいな。</p> <p>(2) カノンから聴き取った音楽を形づくっている要素(旋律の動きやリズムの変化)を加えてキーボードでオリジナルの曲をつくる。</p> <p>山みたいな旋律にするには、どの音を選んだらよいのかな。</p> <p>いろいろな音符を使ってみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時にみつけたパッヘルベルのカノンの秘密を掲示し、いつでも振り返ることができるようにする。 一人一人の取り組みの様子を見取り、「カノンの①②の旋律の動きを使っていて、とてもいいね。」などという賞賛や、「この音をこっちの音に変えてみたらどうかな。」といった具体的なアドバイスをを行う。 <p>(ライブ評価)</p> <p>◆カノンから聴き取った音楽を形づくっている要素(旋律の動きやリズムの変化)をオリジナル曲に生かしていかしている。</p>
伝 え 合 う 15 分	3 各自がつくったオリジナル曲をリレー奏して、感想を出し合う。	<p>(1) 思ったことを発表する。</p> <p>いろいろな旋律の動きを使っているね。</p> <p>旋律がなめらかにつながっていたね。</p> <p>和音とぴったりあっていて、きれいだね。</p>	<p>【ワークシート・演奏聴取】</p> <ul style="list-style-type: none"> 聴き手の子どもたちへの気づきを高めるために、音楽的要素をうまく取り入れて曲づくりをしている子を意図的に指名する。 使っている音楽を形づくっている要素に目が向くように、カノンの秘密から言葉を選んで発言するように助言する。
	4 数名がつくった曲を重ねたときの響きを感じ取り、次時への意欲を高める。	<p>(1) 数人で曲を合わせた時の和音の響きを感じる。</p> <p>すごくきれいになったよ。ぼく達もやってみりたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> キーボードの録音機能で和音を流し、和音の流れにあってるかを確認できるようにする。

(3) 学習評価の進め方

◆カノンから聴き取った音楽を形づくっている要素をオリジナル曲に生かしている。

○B評価と判断できる児童（音楽づくりの様子を机間指導して、一人一人の様子を見取る）

・パッヘルベルのカノンで学んだ旋律の動きを参考に、それにふさわしい音を選び、音楽づくりをしている。

・I→IV→I→V⁷→I→IV→V⁷→Iの和音の響きを感じて演奏している。

○A評価と判断できる児童（B評価にプラスして）

・いろいろな旋律の動きやリズムを、意図をもって、効果的に使っている。

・和音の響きを感じながら、1つの短い曲としてまとまりのある曲をつくっている。

○C評価と判断できる児童への対応

・使用したい音楽を形づくっている要素（パッヘルベルのカノンで学んだ旋律の動きやリズム）を複数選ばせ、教師が演奏して、どんな曲になるのか耳で確かめさせる。

・キーボードの録音機能を使って、つくった曲を客観的に聴くことができるようにする。

(4) 板書計画

I IV V V ⁷ でオリジナル曲をつくろう		重ねてみると…？	
つくった旋律を 究極進化！	レベルアップ！	① 和音から音を選ぶ →和音進行で確認	・きれい
		② 旋律の動きを選ぶ →和音進行で確認	・ぐちゃぐちゃにならなかった
		③ 旋律の動きに合うような音を考える →和音進行で確認	・違う曲なのに、合っていた
		④ つなぐ音を入れてみる →和音進行で確認	・どうして合うのかふしぎ
Aの旋律 ・途中 ・まだ次がある感じ		・みんなでやるともときれい	
Bの旋律 ・おわり ・落ち着く感じ		・すごかったよくなった	
		・同じ和音だからかな	